

善無畏の『大日経疏』に聞く 密教とは何か

大正大学 名誉教授 福田亮成

—(99)—

4、影の喻

① 本文と『大智度論』の引用
一つづき

【解説】

「悉地」とは、siddhiの音写で、さとり境地のことである。「釋論」とは、『大智度論』卷六(『大正』二五・一〇四b)からの引用である。

【現代語訳】

經に「またつぎに秘密主よ、影の喻によって真言行者のさとり境地をうることを解するものである。面が鏡に現るるように、かの真言行者のさとり境界もそのように知るべきである」というは、この中に影というは、『大智度論』卷六にいう鏡中の像の喻である。かの論にいう、「鏡中の像は、鏡の作でもなく、うつる面の作でもない、鏡を執る人の作でもなく、自然の作でもなく、また無因縁の作でもない。どうして鏡の作で

【本文】

亦た無因に非ずとならば、若し因縁なくんば心に常有なるべく、常無なるべし。若し鏡を除き面を除くとも、亦た心に自ら出づべし。是を以ての故に因縁なきに非ず。当に知るべし諸法も亦復た是の如し。我不可得なるを以ての故に一切の因縁生の法は自在にあらざるが故に、諸法は因縁に属するが故に、自作に非ず。

【解説】

「如来の三密の淨身」とは、如来と自身の三密とを鏡と鏡中の像との関係性をもつて考察する。「五神通」とは、天

若し自無なれば他も亦た無なるが故に、他作に非ず。若し他作なりと云わば、則ち罪福の力を失う。亦た共作に非ず。二の過あるが故に。亦た無因に非ず。先世の業因と今世の善悪の行縁と。是れに縁つて苦樂を得るが如く、一切の諸法は必ず因縁あるなり。愚癡を以ての故に知らざるのみ。少兒の鏡中の像を見て、心に樂しみて愛著す。失し已つて鏡を破して求索するに、智人はこれを笑うが如く。樂を失して更に求むることも亦復た是の如し。亦た得道の聖人の為めに笑わる」と。

【解説】

「業因」とは、この世のありさまの原因となつて業のこと。「行縁」とは、業悪の行為による影響のこと。

【現代語訳】

また無因ではないとするならば、もし因縁がなければ、常に有であり、常に無ということになる。もし鏡を除き、面を除くとも、またおのずからあらわれるであろう。よつて因縁がないわけではないのである。よつて知るべきである。

【本文】

今、此の真言門の中には、如来の三密の淨身を以て鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

【現代語訳】

いまま、この真言の教えの中に、如来の三密の淨身を鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

【本文】

すべての存在もまた同じことである。我の不可得であることによつて、一切の因縁によつて生ずるものは、自在ではなく、すべての存在は因縁に属するのであるから、自作ということにはならない。もし自の無であるならば他も無であるから、他作ということにはならない。もし他作であるというならば、罪と福との力を失う。また共作でもない。二つの過失があるためである。また無因でもない。先世の業因と今世の善悪の行縁と、これによつて苦樂を得るように、一切の存在には必ず因縁があるのである。おろかなために知らないだけである。子供が鏡にうつる像を見て、心に樂しみて愛著する。しかしそれを失つて鏡を破して求めるに、智慧を有する人は笑うようなものである。樂を失いさらに求めることも同じである。またさとりを得た聖人によつて笑わ

【現代語訳】

いまま、この真言の教えの中に、如来の三密の淨身を鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

【本文】

今、此の真言門の中には、如来の三密の淨身を以て鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

【現代語訳】

いまま、この真言の教えの中に、如来の三密の淨身を鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

【本文】

今、此の真言門の中には、如来の三密の淨身を以て鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

【現代語訳】

いまま、この真言の教えの中に、如来の三密の淨身を鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

此の語も亦た受けず。是の如くなるを中道と名づく」と。彼の少兒の妄りに取著を生ずるが如くなるべからず。是の如くの觀を作すが如きが故に、行者の心も所得なく、戲論を生せず。故に應に是の如く知るべしと曰う。

【解説】

「如来の三密の淨身」とは、如来と自身の三密とを鏡と鏡中の像との関係性をもつて考察する。「五神通」とは、天

【現代語訳】

また無因ではないとするならば、もし因縁がなければ、常に有であり、常に無ということになる。もし鏡を除き、面を除くとも、またおのずからあらわれるであろう。よつて因縁がないわけではないのである。よつて知るべきである。

【本文】

今、此の真言門の中には、如来の三密の淨身を以て鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

【現代語訳】

いまま、この真言の教えの中に、如来の三密の淨身を鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

【本文】

今、此の真言門の中には、如来の三密の淨身を以て鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

【現代語訳】

いまま、この真言の教えの中に、如来の三密の淨身を鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

【本文】

今、此の真言門の中には、如来の三密の淨身を以て鏡とし、自身三密の行によつて鏡中の像の因縁とし、さとり生ずることがあれば、そのさとりは面にうつる像のようなものである。もしも密教の修行者のさとりを完成した時より、五神通をおこし、永遠に生き、十方の国土を見、諸佛の利に遊ぶにいたるまで、

紅葉照り仁王尊顔風も絶え

波多野 重雄

薬王院の門の両脇の仁王尊は、仏法の守り神で左が密迹金剛、右が那羅延金剛の一对の金剛力士像で、いかめしい顔に夕日が紅葉の照りかえして、憤怒の相が一層きわやかになる。

(高尾山健康登山親睦会々々)

登有喜苑(二)

厚木市 荒井 一雄

山中有美人
塔前祈一心
落日満冬山
白狐下山林

(有喜苑に登る(二))
(山中に美人有り。塔前にて一心に祈る。落日、冬日に満つ。白狐、山林を下る。)

高尾山中に絶世の美女を発見。仏舎利塔の前で一心に祈っている。夕陽の光は冬の山に満ち満ちている。まるで白狐のような彼の美女は、すーっと山林を下って行く。

★2011年度子どもゆめ基金助成活動★

第3回 おはなし広場 in 八王子

読書を楽しむお話の会です。
お話を読み・語り・伝える!

日時 2012年1月9日(月曜日・祭日)
開演 12:45~16:00(受付 12:00~)

会場 八王子市学園都市センター・イベントホール
原八王子駅北口徒歩1分 京王八王子駅徒歩5分
東京都八王子市堀町9-1 東急スクエア12F TEL: 042-646-5611

12:00	受付開始	
12:45	オープニング	おはなしポケット
13:00	開会あいさつ	
13:05	朗読「おはなし散歩道」より	
	① 清宮作品 劇団部	
	② 大澤作品 大澤 桃代	
	③ 池田作品 劇団部	
13:25	和太鼓演奏	タラ
13:40	朗読 ④ 富樫作品 劇団部	
	⑤ 木村作品 劇団部	
13:55	高尾山のおはなし「清濁ざくら」	菊池ただし作、劇団部
14:15	おもちゃのワークショップ	木村、研、他
14:30	休憩	
14:50	いまわかし	まちだ語り手の会
15:00	ミニ講演「お話の楽しみ方」	岡崎 ひでたか
	朗読劇「999ひきのきょうだい」	他 作 木村 研
	「ほしのせんにん」	他 作 菊池ただし
16:00	朗読 劇団部	
	閉会のあいさつ	

主催 おはなし散歩の会
後援 八王子市・八王子市教育委員会
大木山高尾山薬王院

問合せ先: 八王子(042)626-5008
おはなし(03)3991-7058
東京(03)36204-2295

※「第2回おはなし広場in八王子」は、1月29日(日)大泉学園ゆめあホールにて開催します。